第2回 白鳥台地区 あたらしい学校教育推進協議会_会議録概要

日　時	令和4年11月25日（金）18:30～20:30
場　所	白蘭小学校　1階多目的ホール
出　席	別紙出席者名簿のとおり 市教委：伊藤教育長、坂口教育部長、椎名指導主事、山口学校教育課長、松尾学校教育課学務係長、山本学校教育課教職員係長、船橋総務課長補佐、土橋総務課総務係長、菊地総務課総務係主事、松浦総務課総務係主事
内　容	配布資料 1．資料1　白鳥台地区の学校教育に関する地域住民説明会　質疑内容　※事前配布 2．資料2　白鳥台地区のあたらしい学校についての室蘭市教育委員会の方針（案） 次第 1．市教委からの説明 ・地域住民説明会における意見等に係る説明 ・市教委方針案に係る説明 2．質疑応答 3．教育長　挨拶 内容 1．市教委からの説明 ・地域住民説明会における意見等に係る説明：船橋総務課長補佐説明 ・市教委方針案に係る説明：坂口教育部長説明 2．質疑応答 ○白鳥台地区義務教育学校設置作業チームは教員だけで構成するのですか。それ以外の方をメンバーには入れないのですか。 市教委：基本的には、小学校と中学校の教員で構成を考えており、教員同士の意思統一を図っていくほか、教育課程の編成・学校の運営方法などを作業チームで考えていく形となります。協議会とも意思統一を図り、情報共有していかなければならないと考えておりますので、合同開催や部会設置ができればと考えております。また、作業チームにほかのメンバーも入れた方が良いという意見がありましたら、検討させていただきたいと思います。 ○白鳥台地区義務教育学校設置推進協議会の委員について、PTA もいますがご高齢の方が多いため、若い方も入れた方が良いと思います。 市教委：若い方や、これから子どもを学校に通わせる世代の方にも、協議会に参加していただくように検討させていただきます。 ○安平町で早来学園という義務教育学校が令和５年度に開校されますが、「子どもの意見を聞く、子どもと大人が対等に議論する」をモットーに、学校開設に向けて作業を進めており、そこでは「校名、校歌、校章、学校運営、制服」などについて、子どもたちの意見を取り入れています。 学校は子どもたちが主役なので、室蘭市についても、子どもたちの意見を取り入れながら進めていただきたいと思います。

	市教委：子どもたちが主役でなければ、学校を新しくする意味が全くないと考えております。当然、「校名、校歌、校章、学校運営、制服」などについて、子どもたちの意見はしっかりと取り入れて、作業を進めていきたいと考えております。 ○初めての取組なので、義務教育学校のどういった良いところ、悪いところがあるのか内容が見えない中で、協議を進めていくには限界があると感じており、例えば先進校を視察して色々な事を知っている方であったり、もしくは専門家の方などを協議会に入れていただきたいと思います。 市教委：全国でも義務教育学校が次々と開設されており、そういった学校を視察して、生の声を聞いて、実際に肌で感じることもあると思いますので、教員や教育委員会事務局も可能であれば視察を行ない、そこで得たものは協議会に情報提供していきたいと考えております。 ○初めての取組なので、不安やわからないこと、デメリットもあると思いますが、消極的にならずに、失敗を恐れずに進めていってほしいと思います。 協議会の委員については、PTA や地域の方だけでなく、これから子どもを学校に通わせるであろう年代の方も入れていただきたいと思います。これから自分の子どもが通う学校が、どのような形になっていくのか心配な部分もあると思うので、そういった事もクリアできるような人選をしていただきたいと思います。 市教委：小中学校の保護者のほか、まだ小学校に通っていない小さなお子さんがいる保護者の方にも協議会に参加していただきたいと思いますし、子どもの意見・保護者の意見・地域の意見を取り入れながら、白鳥台地区に義務教育学校ができて良かった、ここに子どもたちを通わせて良かったと思える学校づくりをしていきたいと考えております。 ○白蘭小学校を義務教育学校にする場合、普通教室は問題ないと思いますが、特別教室については小学生と中学生では使い方も違ってくるので、施設の整備はできるのでしょうか。また、白蘭小学校だけで完結できるのでしょうか。 市教委：白蘭小学校に入りきるのかというところは、今後、小中学校の先生方と詳細を詰めた上で検証し、あらためてお示しさせていただきたいと考えております。 ○自身は小中が一体となった僻地校に通ったことがありますが、子ども同士の繋がりが強く、家族のような関係でした。これからつくる学校もそういったアットホームな形になっていただけたらと思います。 ○自身の町会は学校から離れているため、あまり繋がりがありません。今年、中学校の合唱部が全国大会に出場するなど素晴らしいことがありましたので、例えば、合唱部の練習風景を地域の方に見せるなどあれば良いと思います。町会も学校のために何ができるか考えていきたいと思います。 ○今、地域と学校のつながりということでお話がありましたが、その好例として、先日白鳥台で連合町会主催のイベントが実施された際に、テントの設営などで本室蘭中学校の生徒が協力してくれました。以前校長先生の方から、地域との連携で何かできることがあればとのお話があり、先日それが実現しましたので、今後の新たな白鳥台地域の活性化に繋がるものと希望を持っております。 ○義務教育学校の特色ある教育を受けたくて、この学校に通いたいという子どもたちを積極的に受け入れられるような学校を考えていただきたいと思います。例えば、喜門岱小学校は学区外から通える特認校ですが、児童が少なくなっていき、学校の継続も難しくなっていくということが想定される中で、義務教育学校で先進的な教育を受けたいという子どもたちが、学区外から通えるような方

策を考えていただきたいと思います。

市教委：おっしゃる通り、特認校として特色ある学校に子どもたちが集まってくるような考えもあるかと思います。これにつきましては、まだ具体的な検討はしていませんが、喜門岱小学校の児童が減少していることも踏まえ、これから検討していきたいと考えております。

〇子どもが少なく１学級しかつくれないと、競争心がなくなるほか、何かあった際にクラス替えができなかったり、または仲良しグループになる危険性があり、高校に進学した際に新しい人間関係を構築できるかなど心配があります。子どもが小学校から中学校に進学するにあたり、様々なストレスを経て成長していくので、こういった課題をどのように克服していくのか考えていかないといけないと思います。
また、小中学校両方の免許を所持している教員が少ないと思いますが、義務教育学校では両方の免許を所持している教員を配置した方が間違いなく良いと思うので、市教委には頑張っていただきたいと思います。
また、英語教育に特化するとありましたが、日本語があっての英語だと思うので、先ずは日本語を大事にしていただきたいです。

市教委：クラス替えができない、少人数の仲良しグループになってしまうのではないかという危険性について、そうならないようにどうしていくかということは、学校運営を考えていく中で重要になってくると考えております。例えば、部活動については、子どもが減少していることから、合同チームの検討をしていかなければならないと考えておりますので、合同で行うことでコミュニケーション能力を高めるなど、色々と考えていかなければならないと思っております。また、英語教育に特化するというのは１つの案でして、これから何に力を入れていくかを考えてまいりますが、国語ができないと数学の問題も解けない、理科の問題も解けないというのは間違いないことで、土台として日本語をしっかり学ぶというのは、大切なことだと思います。これについても学校運営の中でどのように特色を出していくか、工夫が必要と考えています。

〇白鳥台地区の義務教育学校以降、今後も人口減少が進んでいく中で、市内全体の学校教育、学校の在り方について、将来的な構想があるのか伺いたいです。

市教委：子どもが減少している地域については、義務教育学校が良いだろうということで、増える可能性がある一方、子どもが減少しない、もしくは増加するような地域では、小学校と中学校が別々の校舎のままということもありますが、いずれにしても、学校の形に関わらず、小中一体となった教育を行なうことを目指しております。
また、白鳥台地区の義務教育学校については、子どもにとって良い教育をしていると思っていただける学校、是非、自分の子どもを白鳥台地区の義務教育学校に預けて、育てていきたいと思っていただける学校にしたいと考えております。これから、学校の形や教育の内容など議論を進めていくことになりますが、皆様には、沢山の夢を持っていただきたいと思います。全ての夢を実行するのは難しいかもしれませんが、その夢に向かって少しずつ積み上げていけるように、白鳥台地区の義務教育学校をつくりあげていきたいと考えます。最終的には、義務教育学校を巣立っていった子どもたちが、白鳥台地区は良かったよね、あたたかい人たちに沢山関わって貰ったよねと思えるような、ふるさとに愛着と誇りをもつような学校の形を目指していきたいと考えております。

〇小学校と中学校をある程度の人数の教員でまかなうということは、全員が小学生にも中学生にも関わるということだと思いますが、例えば中学校の免許のみ所持している教員が小学生を教えることは、制度として可能でしょうか。

	市教委：中学校の免許のみ所持している教員は、その免許を所持している教科については、主体となって小学生を教えることは可能でして、免許を所持していない教科については、サポートとして教えることは可能となっております。 〇義務教育学校になることで、小学生と中学生の両方を教えることになるなど、今までとは違う形になることに対して、赴任する教員を対象に何か勉強する機会というのはありますか。 市教委：義務教育学校に赴任する教員に対しての特別なプログラムはありませんが、義務教育学校をつくっていく課程の中で、お互いの学校の教育の仕方や、お互いに教えた経験のない子どもへの関わり方などについて、交流の機会を深めていき、具体的なところは、設置作業チームで行なっていくこととなります。 〇実際に今勤務している小学校や中学校の教員は、この義務教育学校についてどのように感じておりますか。 校長：まだ協議会も始まったばかりで、具体的な内容・方向性が決まっていないことから、最短で令和７年度に義務教育学校が開校すること、メリット・デメリットなどの情報は伝えてありますが、詳細はこれから伝えることになります。 教員にも様々な考えがあると思いますが、これについては、例えば今年度で異動する教員もいれば、令和５年度、令和６年度で異動する教員もおり、また義務教育学校に赴任する教員もいることから、立場によって様々な温度差があるのかなと思っております。ただし、その温度差を埋めるのが私たちの仕事と考えております。 〇教員に対しての特別なプログラムはないとのことでしたが、例えば、小中学校での子どもの発達の違いなどに対する教員の不安も考えられることから、今後良い形で義務教育学校をスタートさせるためにも、こういったことへの課題について市教委で考えて頂きたいと思います。 市教委：小中一貫教育の前段階として、小中連携教育を室蘭市では進めてきており、小学校と中学校の教員が交流を図りながら、小学校から中学校へのギャップをできるだけ解消できるように、激しい変化がない接続の仕方などについて取組をしてきております。そのような経験を踏まえて、小学校の教員が中学生にどう関わっていくのか、中学校の教員が小学生にどう関わっていくのかということを、今後、更に研究していくと共に、共有を図っていきたいと考えております。 〇これまでの協議会や住民説明会において、義務教育学校については、皆様異論がないと概ね考えておりますが、正式に白鳥台地区に義務教育学校を設置することは、いつ決定するのですか。 市教委：本日の協議会で異議がなければ、決定とさせていただきたいと思います。 〇義務教育学校に対して前向きな教員が赴任してくれた方が、プラスに働くと考えております。そういった教員を教育委員会として希望を募り、集めることはできるのでしょうか。 また、子どもたちは色々な意見を持っているので、その声を活かしていけるように今後取り組んでいただきたいと思います。 市教委：教員の人事に関しては、前向きな教員を配置できるよう努めてまいります。 子どもたちの意見については、今後の義務教育学校設置推進協議会で取り入れる形にしたいと考えております。

	ー質疑応答終了ー 市教委が示した方針（案）については、委員全員から承認を得た。 坂口教育部長から、今後のスケジュールについて説明。 ＜今後のスケジュール＞ ・本方針を、令和４年１２月開催の市議会総務常任委員会において報告。 ・「（仮称）義務教育学校設置推進協議会」を新設し、来年１月に開催予定。 ３．教育長　挨拶 　伊藤教育長　挨拶 ＜協議会終了＞